

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:7月31日(水)

会場:田幸コミュニティセンター

参加者数:31人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>平成17年頃から田幸がいち早く、学校給食で地産地消の取組を行っている。しかし、担い手の高齢化・少子化が進んでいる。市として何か対策展開を考えているのか。行政と地域が連携した取組の考えはあるのか。</p>	<p>田幸の調理場での地元野菜の活用率は、平成29年度のデータで40.4%である。平成30年度のデータでは、42.3%で市内では高い数字である。市全体では、平成29年度が24.3%、平成30年度が23.3%であり、田幸では日頃から学校給食に対し非常に協力をいただいている。皆様が現状においても、学校給食を通じて、生きがいづくりを持たれたり、コミュニティの形成に繋がられていることは、十分承知している。ただ、学校給食だけで、全ての地産地消を担っていくのは、非常に荷が重いのも事実である。調理場については、市としては、老朽化している調理場を新しいものにして、安全・安心な環境の中で、子どもたちに安価で給食を提供していきたい。また、旧市内においては、デリバリー給食になっているが、3割程度の利用しかない。しかしながら、保護者においては、74%が調理場で作ったものを食べさせたいという願いも持っている。デリバリー給食者も含めて、統合する中で、給食を提供していきたいという事で、市としての提案をさせていただいている。これまでも申し上げたように、給食の食材については、農家の皆様をはじめ地元生産者、市内業者の協力をいただきながら、引き続き地元食材を優先的に調達していきたいという考えに変わりはない。現在、市議会を含めてご意見を伺っている途中である。再編規模や整備場所も決まっていないため、具体的な食材の調達方法を今、お示しできないが、限られた学校給食費の中で、引き続き、地元農産物を優先的に使用し、子どもたちに安全で安心な学校給食を提供していきたいという考えは持っている。今後ともよろしく願いたい。</p>	
<p>給食調理場の統合問題もからめて発言をさせていただく。田幸ではふるさとランチグループが学校給食として、田幸・和田・神杉・川西小学校へ地元野菜を提供している。バックグラウンドとして、農業の田幸、農業が盛んな地域で、こういう取組をなし得たものである。農業文化祭という名でふれあい祭りをやっている。昨年も100戸の農家が233点の農産物を出展し、とても盛況であった。そのような背景がある。学校給食の取組は、参加農家の献身的な努力と調理していただく学校給食調理場で調理する職員の皆さんをはじめとした、学校側の理解があってはじめて、なし得る取組である。給食へ提供する方が高齢化し、カバー率が70~80%あったものが、50%を切っている。残念な状況であるが、たくさんの方から喜ばれている。去年の統合問題の地域説明会で、田幸以外の住民の方からもぜひ、田幸の取組を継承して欲しいという意見がたくさん出ている。問題は、その場で教育委員会からは、「具体的な検討はしていない」、「これから皆さんの意見を聞いていく」と言われた。しかし、地産地消を推進するという姿勢は、きちんと持っているという話があったが、現実問題として、農家から野菜を提供していただいて、給食に提供するということになれば、その仕組みの中に中間的支援組織がどうしても田幸の経験からいると思う。農家と調理場を繋ぐところが必要である。いわゆる市場経済を越えたところに、中間支援的な取組がある。今後、調理場の統合問題を考える中で、地産地消は言うは易しと私は思う。実際、具体的にどのような展開をして、地産地消を進めていくのか。もし、本当に地産地消を進めるのであれば、早期に研究をして進めていかないと、とても難しいと思う。こういう話が出てから以降も、実際に取組をしている田幸への仕組みについての聞き取りなど受けた記憶がない。地産地消を進めるのであれば、具体的な覚悟を持って進めてもらいたい。</p>		
<p>地産地消の話が出ているが、地域の農家の苦しみをご存じなのか。害獣問題一つにしても、市は、檻を貸すとか電柵にすれば、費用の何パーセントかを補助するとかいう話が出ているが、タヌキやキツネが出ており、捕獲してはいけなくなっている。今、ちょうどタヌキ、キツネ、イノシシ、シカに子どもが生まれて、四方八方に出ている。特に一般の出荷されない、自家消費の農家でも被害が出ている。それで、農業を推進していくという考え方はおかしい。行政が害獣駆除に対して、どれくらい力を入れているのか。農家は少しの畑で、全部食べられている。農業では、食べていけない状況である。私もネットなど張っているが、それでも入ってくる。そのあたりの対策をもう少し考えて、イノシシやシカが入れば、駆除するなら駆除する。キツネが入っても駆除する。きゅうりなど道路に投げているのは、キツネが食べている。対策をしっかり考えるべき。そうしないと、若い者が育たない。医薬品を使った計画をされているが、それは大型農家でやっていくのだろうが、地産地消は、ほとんどが小さい農家である。</p>	<p>有害鳥獣の駆除対策については、農家から被害の連絡があり、市職員が確認を行っている。その状況に応じて、駆除班の出動をお願いさせていただいている。防護柵や電気柵の設置については、個人、地域でお願いをしている。個人よりも集落で、動物を寄せ付けない環境を作っていくことが必要であり、地域で学習をしたり、環境改善に取り組んでいただきたい。色々な対策を総合的に実施して、有害鳥獣の被害を防止したいと考えている。市の職員が直接行って、防護柵の設置を手伝うのは難しいため、地域でまとまって取り組んでいただきたい。</p>	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 7月31日(水)

会場: 田幸コミュニティセンター

参加者数: 31人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>害獣駆除で、高齢者の方がたくさんおられ、家とか常会などで、周りに柵をされ、いろいろとご苦労されている。そういうところで、市役所の職員さんが、頭やパソコンを使うだけではなく、そういうところに出向いてお手伝いをしていただければ、すごく困っている人達は助かるのではないかと思う。要望があれば、聞くこともしていただければと思う。検討して欲しい。</p>		
<p>JR塩町駅の駅舎は、塩町の方が維持管理されているが、利用者が全くない。折角の資源である広いスペースを生かして使いたいが、飲み食いをしてはいけないなどの細かい決まりがあり、地域の人々が利用しやすいような内容に見直して欲しい。折角、塩町にあり、学生もたくさん利用しているので、学生も使えるようなものになって行けば良いと思う。前回も同じように発言したが、何も変わらず、今後どうなっていくのか。私が役員をしていた時に、JRと市と塩町地区の3者で(契約)を結んだと聞いた。その後、どうなったのか。</p>	<p>これまでの経緯もあり、どういった契約なのか、もう一度確認させていただく。条件を変えることが出来るのか、条件の中でどういった使い方が出来るのか確認をさせていただきたい。</p>	
<p>漢方薬材であるが、黒にんにくを植えている方が近所にいる。意外と手が掛からない気がする。漢方薬材に利用出来るのであれば、黒にんにくの里とかでやって行けば良い。また、私は和牛の肥育農家であり、行政の方からみよし和牛のブランド化支援を受けている。これをもう一歩進んで、ここ田幸には、優秀な繁殖農家が結構おられる。その優秀な雌牛を利用して、種牛を作れば良い。市で種牛を持っているところは無いと思う。そこをアピールしていけば良い。</p>	<p>漢方薬材は、今年から調査を本格的に行う。黒にんにくも機能性植物として、有効な品目である。人手が掛からない、省力化のメリットがあり、一つの候補として検討して行きたい。田幸地区には、肥育農家、繁殖農家がある。連携して、市独自の種牛というのは、非常に良いアイデアとして受け止めさせていただく。ここに踏み切るには、いろいろと地元繁殖農家を含め、また、和牛改良組合、JAを含めて考え方を整理して行くことが必要である。貴重なご提言ということで、この場は受け止めさせていただく。</p>	
<p>保育所の未満児保育をずっと希望していたが、4月から実現していただいた。現在は定員より少ないが、今年度は、定員をオーバーする勢いで集まっている。早期の実現に喜んでいる。それに伴い、定員オーバーの状況なので、保育士の確保が重要である。実際、地元の保育所に入れたいのに、よその保育所へ連れていかなくてはならないことになるので、今までと何ら変わらないことになるので、そこは、しっかりとお願いしたい。保育士募集のチラシ等を入れてもらった記憶があり、もっと広範囲に募集情報を出していただき、必ず地元の子どもたちが入れるよう、保育士の確保を引き続きお願いする。</p>	<p>未満児保育を開始し、定員6で、現在、4名の子どもが入っている。近々、もう1名の方が入られる。地元の方が入られるのは喜ばしいことである。定員越えを起す勢いで、保育士確保が重要となっている。少し前に、新聞折り込みにチラシを入れさせていただいた。いろいろな手立てを尽くして保育士を探しているところである。地域の子どもたちを地域の保育所で受け入れていきたいと考えている。</p>	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:7月31日(水)

会場:田幸コミュニティセンター

参加者数:31人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>畑原地区で、子どもたちが通学する際、広域農道を横断する時に、斎場に向かって右側の木が大きくなっており、車が来るのがほとんど分からない。子どもたちが渡る時に危ない。私も車で渡る時も見えにくい。道も良いので、結構、スピードを出して行くため、大変危険である。1回土木課へ電話して、現状を見て欲しいと言ったが、地権者がいる事なので、市としてはあまり手が出せないと言われた。地元の者だけで、地権者へ話をするのは、言いにくいところもあり、市の方から地権者へ助言していただきたい。そうすれば、早く見通しも良くなると思う。大切な子どもたちなので、早く対応していただきたい。</p>	<p>上部が伸びて、見通しが悪い箇所は、確認をさせていただく。草刈りの1mの幅については、全部が1mということでもないもので、危ない所は、確認して広めに刈るとかなどの対応は出来る。これについても現場を確認させていただき、どういう対応が良いか検討させていただく。</p>	
<p>農免道の昨年草刈りをしてもらった所で、池の周りの見通しが悪く、大型車がセンターラインをオーバーして通っている。そのような箇所が2箇所ある。畦畔の草刈りを1mで委託されているが、場所によっては、草刈りをされていないため、草が西日に沿って、もの凄い勢いで生えている。毎年このことであり、大型車がセンターラインをはみ出してくる。今年も今のままなら、この先、影響が出てくる。地権者に許可を貰って刈っていただきたい。</p>		
<p>田幸の上井田ぶどう園は、若い方のUターンにより、耕作放棄地が無いし、新規にぶどう園を作られるなど、頼もしく思っている。担い手対策などこれからの農業を考えていくのに、親を継ぐ後継者が必要である。親を見て育っているのでも、大体の仕事のやり方は分かっている。農業で儲けようと思えば、5年や10年では食べていけない。地域を維持するために、後継者支援に力を入れていただきたい。</p>	<p>農業の担い手の育成・確保は、三次市の農業の重点施策の大きな一つである。従事者が減少する中で、これからの三次市の農業を背負っていく若い方を支援していくことは、大切で重要な取組であると考えている。現在、認定新規就農者で、認定を受けている満40歳未満の若い農家は、14名おられる。認定を受けられずに親元就農であるとか、また、就農されている方もおられる。いずれにしても、この若い世代を育て、確保していく取組は、今後も重点的に進めていきたいと考えている。</p>	
<p>三次市教育ビジョンや三次市子どもの未来応援宣言などを掲げられて、子どもたちの教育に関して、ご尽力をいただいている。そこで、質問であるが、文部科学省の調べで、2018年10月の調査によると、不登校の小中学校の児童生徒が5年連続で増加している。全国では、982万人の児童生徒がいるが、それに対して、14万人程度の不登校の児童生徒がいる調べがある。2017年2月に「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」が制定された。この法律は、義務教育段階における普通教育に相当する教育機会の確保等に関する法律である。私の子は、現在、塩町中学校に通っており、6名の子どもが学校に行けない状況である。その中で、義務教育に相当する学びの場が無いため、昨年12月から学校で、保護者の方と話をし、何とか作ることが出来ないかということで、三次市へ提案をさせてもらった。実際に子どもたちがどれくらい学校へ行っていないのか、三次市で把握し、何かこの法律に基づき対策をしているのか。フリースクールでの学びであれば、何とか通って学びを受けることが出来ている。学校の中となると、学びが受けられない。義務教育を受ける場所が無いということで、フリースクールと話をしたが、まだ、義務教育を受ける施設として認められていないため、学校に通ったことにはならない。ぜひともフリースクールで学んでいる子どもを普通学校と同じ教育を受けられるような、学校教育を修了したという課程を認めていただきたい。また、学校にカウンセラーの先生が週1回来られたり、支援員の先生がおられ、学校の別の教室で授業を受けているが、カウンセラーの先生は、週1回のため、子どもたちに対応出来る人員を増やしていただきたい。授業を保健室や別室で受けることが出来るが、教室で学べる状況とは違い、学校で学べない子どもが仕方なく行くような環境となっているため、改善していただきたい。普通教室では学べないけれども、学校でしっかり学べる教室を設けてもらいたい。三次市の今後の方針を聞きたい。</p>	<p>民間が行う学校以外の学べる場、それが学校に替わってやっけて行ける所であれば、出席扱いにしていくことを、教育委員会としても今年度結論を出して行く方向で、教育委員会へ示している。現在、県内では、福山市、尾道市、広島市が民間が行っているところを認めていくよう検討され、また、実施されているところもある。どのような形態をとっていけば、学校に替わっての出席扱いになるのかを、現在、いろいろな資料や現地へ赴き研究をしている段階である。県が発表している数値で申し上げますと、平成29年の数値で、広島県では、小学校で893人の子どもさん、中学校で2、149人の子どもさんが、学校へ行きづらい状況との報告を受けている。三次市では、平成7年に、適応指導教室「セキレイ広場」を設置している。県内でも7番目で、早い段階で設置し、また、新たな子どもの居場所づくりとして、学校に替わる居場所を作ってきたところである。現在、学校の中に教室以外に子どもたちが過ごせる場を設けている中学校が2校あり、専用の机をはじめ、学習環境を整えて行く形をとっている。したがって、現在、適応指導教室や学校の中での別室を設けて、子どもたちの学びの場を保障して、社会的自立や学校への復帰をめざし、しっかり支援していこうとしているので、また、お気づきやご意見などがあれば、お聞かせいただきながら、参考にさせていただきたい。</p>	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 7月31日(水)

会場: 田幸コミュニティセンター

参加者数: 31人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>教育長の話では、進んでいることは良く分かるが、子どもたちが小学校、中学校で過ごす期間は短い。中学校は3年間しかなく、貴重な時間である。1年1年が過ぎており、その間に高校受験などが迫っており、とにかく早く対応していただきたい。今、実際に学校へ行けない子どもたちへの支援がまったく無い訳ではないが、放って置かれている状況を不安に思っているので、早期に対応して進めたい。</p>	<p>学校としても、学校へ行きづらい子どもに対して、学校と家庭が連携しながら、また、学校の状況を伝えしたり、課題をお渡しし、提出していただいたものについては、学校の方でも見させていただく取組は行っている。支援についても、更に行っていくよう考えている。今、家庭にいらっしゃるお子さんについても、受験の時期に自分も高等学校等をめざすということになれば、当然、受験をすることも可能なので、受験に向かっていけるだけの学力をしっかりと、家庭と連携して取り組むよう考えている。</p>	
<p>お年寄りに、運転免許証を返納されている方が多くおられるが、それをしてしまうと、田舎のお年寄りは、病院へ行ったりすることが、出来にくくなる。しんどい時でも我慢する。そういう方がいらっしゃる。私は、作木と君田の診療所に行っているが、そちらでは、空のバスが毎日走っている。もの凄く無駄であると思う。何年か前にも言わせてもらったが、空のバスを走らせるのではなく、個々の送迎で、病院へ送るなど、そういうのをされたらどうかと思う。常々、患者さんが困っているのを見ながら思っている。空で走るバスは、本当に勿体無い。ガソリンも使うし、時間も使う。そこに市からお金が出ているのであれば、そのお金を個人で送迎してもらおうような仕組みにさせていただければ、もの凄く年寄りも助かるのではないかなと思う。やむをえず送迎する時がある。職員の仕事の時間を割いているので、考えて欲しい。</p>	<p>・人口減少、自家用車の普及に伴い、市民バス等の利用が減っている状況にあるが、日常生活に必要な公共交通を守っていかなければいけないと思っている。地域によっては、市民バスのほか、実際に乗りたい人が事前に予約を入れて利用出来るデマンドバスの仕組みを取り入れている、三良坂地域のようなところもある。市としても、地域の実情に合った持続可能な公共交通の在り方について、地域の皆さんと一緒に考えていきたいと思う。</p> <p>・地域公共交通の空バスが運行するというのは、三次市内の地域の皆さんからもご指摘がある。三次市内に限らず、他の地域でもそういった問題が浮上している。そこで今、社会実験的に取り組まれているのが、人工知能を活用して、地域公共交通をどのように維持していくか、効率的に運営していくか、こういった方向に地域公共交通は、今まさにシフトしている状況にある。三次市もバスだけではなく、AIとタクシーをかけた合理的な運行をするか、いろいろなことが想定される。その点については、今後の社会実験など状況を見据えながら、効率的で効果的な運行、その中で市民の皆さんが利用しやすい、そのような地域公共交通の仕組みを追求していきたい。今、作木町と川西で社会実験が行われている。民間企業が社会実験を行っている状況であり、社会実験の状況を踏まえて、今後の地域公共交通、市民の皆さんの移動手段について、今後、調査研究を進めていきたい。</p>	
<p>三次市へ看護専門学校はあるが、もう一つ医療の専門学校の設置を考えていないのか。理学療法士の専門学校が出来れば良いと思う。リハビリを入院中に理学療法士の方にやっていただいた。その時は、もの凄く楽であった。入院も3ヵ月しかできない。今、週に2、3回リハビリに行っている。薬では効かないが、リハビリは5分くらいでも楽になる。理学療法士が少ないのだと思う。三次市に専門学校を作る方向に持って行ってほしい。どのように考えているのかお聞きしたい。そのような話があるのか。高校を卒業して、専門学校に来て、3年で国家資格を取り、市に残ってもらえば良いと思う。</p>	<p>理学療法士の専門学校については、今まで検討したことがない。高齢化という中で、医療スタッフとして理学療法士などの需要は高まっている。専門学校の設置に当たっては、これまで考えたことがなかったので、どのような条件があるのか、若しくは、既存のところでは何か出来ることあるのか、検討する必要がある。県内では、いろいろな大学が理学療法士とか、医療系、福祉系の学部を増やして運営されており、そういったところへ状況を聞かせていただく。今すぐ、出来る出来ないは、お答え出来ない。ご自身の体調については、しんどい時には、医療機関に相談されたり、介護事業所等へもいろいろとご相談されて、体調にはご留意していただきたい。専門学校については、持ち帰って調査をさせていただく。</p>	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 7月31日(水)

会場: 田幸コミュニティセンター

参加者数: 31人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>酒屋にあるみよし運動公園の入り口のところにあるスケートパークを私たちも利用しているが、屋根が一つもないので、利用されている人は、熱中症などすごく怖いと感じている。また、水路があり、周りに柵が無いので、スケートボードを乗られる方が何回も落ちそうになっていて、スケートボードは濡れたら駄目なので、柵をして欲しい。また、雨が降った時にすぐに冠水してしまう。雨が降った後に晴れて利用しようと思っても中止になっていることが多いので、水捌け対策をして欲しい。また、階段を登ったところのトイレが遠く、利用される方が困っている。以上4点を見直してほしい。結構、広島市内からイベントで使われており、多くの方が来ているので、これらを改善すれば、もっと市外から人が集まるようになる。</p>	<p>もともとスケートパークを作ったところは、大雨が降った時に水を溜めて、下流の水路に負担をかけないように少しずつ水を溜めて、流すための調整池になっている。平成5年に運動公園がオープンして、それ以来、草も生え、元々はバスケのコートを作る計画もあったが、東京オリンピックでスケートボードが採用されるということで、BMXとかスケートボードが出来るところを作った。水については、一度に流すと下流に影響があるので難しい。柵については、調整池ということもあり、泥を溜める所は、少し深くなっており、そこには、チェーンで落ちないように柵をしている。他の部分については、小段もあり整備しているところである。屋根については、あの範囲に屋根付きのものを作るのは、なかなか出来ない。トライアルパークとスケートパーク併せて、屋根付きの東屋を1箇所設けている。トイレについては、今のところ近くに設置するのは難しいと考えている。</p>	
<p>アグリパークにキャンプ場が入るとい噂を聞いた。私たちの世代では、今凄くキャンプブームが続いているので、県外のキャンプ場を探したりもしている。庄原の高野町に大鬼谷キャンプ場があるが、すごく人気で、ただキャンプが出来るだけではなく、マウンテンバイクの貸出で、子どもたちが乗って走れるとか、木の上のアスレチックなど魅力的である。ただキャンプが出来るだけではなく、プラスアルファがあれば、子どもたちも楽しめる。今、タブレットなどを子どもたちが使う時代であるが、自然に触れることは良いことなので、そのことがどうなっているのか気になっている。</p>	<p>トレッタ三次の周辺を整備して行くということで、一つは、都市農村交流を促進していくこと。それから販売力強化を図って行くといったことを目的に、何を整備していくのかを現在、研究している。やはり、三次の自然であるとか、農業の魅力を発信しながら、都市住民の方を三次に呼び込んで行く。触れ合いの場であったり、収穫体験であったり、また、言っていたいたキャンプ場もあろうかと思う。都市農村交流、三次の農業、自然の魅力発信、そういった視点で整備計画を検討している。</p>	
<p>小学生の子どもがいるが、市内の小学校に和式のトイレが多く残っていて、洋式が一つしかない状態である。和式が家に無いので、仕方が分からないとか、失敗をしてしまうとか思うらしく、それが原因で学校に行きたくない時期があった子どももいるので、洋式化をして欲しい。田幸の小学校体育館も老人会で使われるので、老人の方も和式はしんどい。洋式化を少しずつでも進めて欲しい。</p>	<p>トイレの洋式化については、三次市としても今、課題として認識している。全国の小中学校のトイレの洋式化は、平均と比べると広島県は非常に低くなっている。その中で三次市は、平均より数字は高い。学校施設へ和式トイレがあるだけで、子どもの健康状態であったり、あるいは、いじめに繋がったり、そういったケースも色んなところで、報告されている。様式化については、必要なことであると考えている。その地域によれば、学校が避難所に指定されているというようなこともあったり、万が一、田幸の地域で、何かあった時、学校に避難する。でも高齢者の方がトイレに行きたくても和式では出来ないというケースも想定した上で、洋式化率を上げていく整備が必要であると認識している。一度には出来ないかもしれないが、長期的な計画を立てる中で、全ての和式トイレを洋式化するのではなく、洋式化率を高めるということで、取り組んで行く必要があると考えている。</p>	